

平成20年度から29年度に採用された「若手の職員」へのインタビュー

～ 石川労働局総務部総務課人事係 編纂 ～

《労働基準監督官編》

問1. 数多ある就職先候補の中から、何故、労働局を選んだの？

- 職員A 小さい頃から、父親が私生活を犠牲にして働く姿を見て、現在の労働に疑問を感じ、この仕事なら労働環境の改善のために役立てると思ったから。
- 職員F 自分が学んだ法律の知識を生かせるから。
- 職員G 仕事内容に興味があったから。
- 職員I 監督・安全衛生・労災と多岐にわたる職務があり、自分の能力を監督官としてさまざまな場面で生かせるのではないかと思ったから。
- 職員K 労働時間が人生の大半であり何かしら誰かの役に立つと思ったから。
- 職員Q 霞ヶ関オープンゼミで、初めて労働基準監督官というものを知り、いろいろな現場に行き、実情を知り、職場環境の対策改善に関与することがとても魅力的だったから。
- 職員R 大学の専攻が労働法で、労働関係法令に興味があったから。広域で勤務できる国家公務員に関心があったから。
- 職員S 労働関係の講義を受講し、労働基準行政に興味を沸き、労働条件を改善したいと思ったから。
- 職員Y 仕事の内容に魅力を感じたから。

問2-1. 労働局に入って「良かったなあ」と感じたのはどんなとき(こと)？

- 職員A 普段は見ることのできないいろいろな仕事の現場を覗くことができること。
- 職員F 相談者や申告人から感謝されたとき。有給休暇を取得しやすいこと。
- 職員G 相談者の期待されていることに応えられないことも多いが、こちらの主張に対し前向きに対応してもらい状況改善が図れたとき。
- 職員I 工場や事務所などを含め、普段暮らしている分には縁のなさそうなところも、見聞できること。
- 職員K 基本的に定時退庁、有給休暇が取得しやすいこともあり、自分の時間が確保しやすいこと。また、監督署に対してかたいイメージがあったが、必ずしもそうではなく、とてもやりやすい環境であったこと。
- 職員P いろいろな業種の事業主(代表者)と直接話ができること。
- 職員Q 生活を支える基盤の「労働」に関わる相談を受けることは大変だが、頼りにされていると実感したとき。ほとんど残業が無いこと。
- 職員R いろいろな業種の工場や現場に行き見聞できること。
- 職員S いろいろな業種の事業主(代表者)や労働者と直接話ができ、世間の状況がつぶさに肌で感じられること。
- 職員X 年休を取得しやすいところ。視野が広がるどころ。
- 職員Y 様々な人の対応をしていく中で自分の成長を感じられること。

問2-2. 労働局に入って「大変だなあ、不満だなあ」と感じたのはどんなとき(こと)？

- 職員A 人事制度上、地元に戻れるのが早く7年目からというのは、両親の年齢を考えると少し長いように感じる。
- 職員I 残業があまりないため、給与の額としては多くはないこと。
- 職員Q 今後、全国区の転勤があるとのことだが、自分の希望が反映されるか心配なこと。
- 職員Y 希望通りに異動できるか心配なこと。